

ドイツを語るパトリック

Vol.11

家電製品



【作】 った人も、売った人も使った人も、みんなが協力しあう事がリサイクルに必要です。こういったフレーズで、日本はリサイクルの意識を高めようとしている。昔、ほとんどの電化製品は使用後に捨てられたり、埋立地に使われたりした。でも、再生可能な資源がまだ多く含まれている。つまり、そのまま捨てられたら、資源の再生は難しくなる。その他に、電化製品に含まれている環境に悪影響をもたらす物質もいっしょに捨てられる。その物質は川や水で流れ、田んぼや魚の体内に入り、人間にも悪影響をもたらすことは問題であるので、家電ゴミのすべてをリサイクルする責任がある。

【ド】 イツでは環境に対しての意識を高めることで、リサイクルに提出される家電ゴミの割合を高めようとしていた。でも、環境に対しての意識が高いといっても、全員がルールを守るわけではなく、使用済みの電化製品をそのまま捨てる人が昔たくさんいた。従って、使用済みの電化製品のリサイクル率は低かった。問題は、消費者が負担するリサイクル料金だった。お金がかかるならリサイクルに提出するよりも、家でリサイクルせずに古い電化製品をそのままにしておく人や、家庭ゴミと混ぜて捨てる人もいた。家庭ゴミと混ぜられたり、そこらに捨て置かれた電化製品は最後的には市町村が回収し、リサイクル料金を負担して処理しなければならなかった。

そこで、2006年3月から、製造者は電化製品を使用後に回収し、リサイクルしなければいけないという法律が制定された。消費者は使用後に電化製品を無料で提出できるようになったが、リサイクル料金が再び消費者の負担になるように、製造者は電化製品の価格に料金を含めた。つまり、商品の値段は少し高くなったが、消費者は製品を購入する時にリサイクル料金も払うという制度だ。一見するとリサイクル問題が簡単に解決できそうな制度だが、法律が制定されてからも、リサイクル率は相変わらず低いままであった。

各電化製品メーカーにリサイクルの責任があっても、実際に自らリサイクリングをする会社は少ない。代わりに専門リサイクル業者に頼み、リサイクルをしてもらうという形が一般だと言えるだろう。だが、業者はゴミの一番安い処分の仕方しか考えず、家電ゴミを第三世界に輸出することが多い。もちろん、こういった国では家電ゴミをきちんとリサイクルする施設がほとんどなく、つまりリサイクルを行わず、問題を他国に移すだけになる。せっかく回収したリサイクル料金は実際にリサイクルに使われず、業者の利益になるだけだ。

言うまでもなく、輸出されるゴミのチェックは厳しく行われず、チェックされても、問題にならないだろう。例えば、パソコンの場合だと壊れていても、業者は「まだ十分使える寄付品」としてゴミを偽装し、申告することもある。つまり、そもそも厳しくないチェックに引っかからず、そのまま輸出ができることが一般的だ。目的国に到着した家電ゴミは、どんな厳重な税関検査員にチェックされても、賄賂で入国させることもあるようだ。こうやって、環境先進国であると思われるドイツだけでなく、欧州連合の国々とアメリカ合衆国などは自分の国の環境だけを守り、リサイクル問題を輸出している。

【電】 化製品を購入する時に、消費者がリサイクル料金を払うことになるのは当たり前だ。だが、消費者は使用後、実際に製造者がリサイクルの義務を果たしているかどうかチェックすることも必要である。

第9回波トリック 国際交流協会感謝祭

ドイツの料理と飲み物を味わいながら、楽しく時間を過ごしましょう。

●日時 10月9日(日) 午後1時～4時

●場所 グリムの館 ●会費制となります。

※詳しくは生活安全課までお問い合わせください。

問い合わせ先

生活安全課 ☎40-5555

- 参加費 材料費のみ (1,000円)
- 準備するもの エプロン、三角巾 タップ (持ち帰り用)
- 講師 (株)の本穀粉
- 参加募集人員 10名
- 受付時間 午前9時50分より
- 申し込み期限 9月13日(月)
- 申し込み時に、住所、氏名、連絡先を伝えてください。
- 申し込み・問い合わせ先 生活安全課市民生活グループ ☎(40) 5555

米粉使用のクッキング講習
(下野市消費生活リーダー協議会主催)

普段食しているお米から作られる粉(米粉)を使用した菓子類を作ってみませんか。この菓子類がお米から作られたもの?と思われるようなものができあがります。

- 日時 9月16日(木) 午前10時から午後1時
- 場所 保健福祉センターきらら館調理室